

2018年12月10日

報道関係各位

一般社団法人 日本電気計測器工業会 (JEMIMA)

電気計測器の中期見通し2018～2022年度版 発行・発表会のお知らせ

2018年度の電気計測器全体の売上見込みは 6,193億円(前年度比+3.0%)、
半導体関連市場や電子・電池材料などを含む化学・医薬分野が堅調に推移。

一般社団法人日本電気計測器工業会 (JEMIMA、会長 堀場 厚)は、当工業会の統計データをもとに2022年度までの電気計測器の需要見通し調査を行い、冊子「電気計測器の中期見通し2018～2022年度」を発行いたしました。

電気計測器全体(国内売上+輸出)の2017年度実績は、半導体関連市場や電子・電池材料などを含む化学・医薬分野の伸長、米国を始めとした設備投資の堅調な需要により、計測器全体で5,556億円(前年度比+0.1%)の見込みに対して、実績は6,011億円(前年度比+5.5%)でした。製品群別では「電気測定器」、「PA計測制御機器」、「環境計測器」が一転して前年度比でプラス成長となりました。

2018年度は、世界経済の先行きが一部で不透明ですが、引き続き半導体関連市場や電子・電池材料などを含む化学・医薬分野が堅調に推移すると予想しており、電気計測器全体として6,193億円(前年度比+3.0%)を見込みました。

2019年度以降は、電力量計においてスマートメーターへの取替需要がピークを過ぎたことが減少要因となり、電気計測器全体では微増、微減を繰り返しながら、2018～2022年度の年平均成長率は-1.0%のほぼ横ばいと見通しました。プラス要因としては次世代通信「5G」やIoT関連の設備投資が牽引役となり、電気計測器の需要が緩やかに増加することが期待されます。

海外拠点の売上を含む「国内売上+輸出+海外拠点売上」の2017年度実績は、国内売上や輸出の増加もあり、前年度比+4.8%の8,018億円となりました。2018年度は、半導体関連市場や電子・電池材料などを含む化学・医薬分野に加えて、東京オリンピック・パラリンピックへ向けたインフラ整備や設備投資、堅調な海外の景気動向により、前年度比+2.6%の8,229億円を見込みました。2019年度以降は2020年度を境に減少傾向となり、2017年度比+0.8%の8,080億円になるものと見通しました。

本日発行・発表の「電気計測器の中期見通し2018～2022年度」は有料で頒布いたします。

「電気計測器の中期見通し2018～2022年度」発行・発表会の開催概要:

- ・ 主 催: 一般社団法人日本電気計測器工業会 調査・統計委員会
- ・ 開催日時: 2018年12月10日(月)13:30～17:00
- ・ 場 所: 全国町村会館 (東京都千代田区永田町)

発行刊行物: 書籍名「電気計測器の中期見通し2018～2022年度」

発 行 日: 2018年12月10日

頒 布 価 格: 一 般 : ¥8,640- (税込・送料別)

JEMIMA会員 : ¥3,240- (税込・送料別)

【「電気計測器の中期見通し2018～2022年度」の主な内容】

【掲載内容】

序

第1章 本書の使い方

第2章 中期見通しの概要

第3章 電気測定器（一般測定器）

第4章 P A計測制御機器

第5章 電力量計（計器）

第6章 環境計測器

第7章 放射線計測器

第8章 工業会自主統計

